



簡単セットアップ・利用ガイド

2016年7月8日

Ver 1.00

ソニックウィン

商標

- ・ Microsoft, MS, Windows XP, Windows 2003, Windows Vista, Windows 7, Windows 8, Windows 2008, Windows 2012 および Microsoft Office 製品は、米国 Microsoft 社の商標または登録商標です。
- ・ Intel, Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- ・ その他、CPU、ソフト名は一般に各メーカーの商標、または登録商標です。
- ・ 通称またはその他の名称で表記していることがあります。ご了承ください。

お願い

- ・ 本書に関する著作権はソニックウインに帰属します。ソニックウインの事前の許可なく、本書の一部あるいは全部を複写・複製、再配布することを禁止します。
- ・ 本書および本製品は、予告なく変更されることがあります。
- ・ 本製品の使用効果については一切責任を負いかねますので、ご了承ください。

目次

改訂履歴	i
目次.....	ii
1. 初めに.....	3
1.1. 本書の目的と対象読者	3
1.2. 提供されるモジュールの内容	3
1.3. 簡単セットアップが対象とする OS、及び推奨動作環境	3
2. 簡単セットアップの位置付け、及び概要	4
2.1. 簡単セットアップの位置付け	4
2.2. 簡単セットアップの画面構成とその概要	5
2.3. セットアップファイルのドロップについて	6
2.4. セットアップ要件の設定について	7
2.5. セットアップモジュールの設定について	9
2.6. コードサイニング証明書の組み込みについて	10
3. 簡単セットアップ実行モジュール	11
3.1. 標準セットアップ実行モジュールの表示画面	11
3.2. 展開先固定のセットアップ実行モジュールの表示画面	11
3.3. 分割セットアップ実行モジュールの概要	12
3.4. 簡単セットアップ実行モジュールのオプション登録	14

1. 初めに

簡単セットアップ作成デザイナーをご購入いただき、誠にありがとうございます。

本書は、自己解凍型実行モジュールによるセットアップの実行に関する動作概要、及び実行モジュール作成に関する情報が記載されております。

本製品をご利用になる前に、一読下さるようお願い致します。

1.1. 本書の目的と対象読者

本書の目的は、特定のファイル群を簡単に実行モジュールに組み込み、その組み込んだファイルを所定のフォルダに展開し利用できるようにする事を目的として作成されており、作成条件によってはシステムフォルダへのコピーを行う場合もあります。

また、EXE 実行モジュールの自動呼び出し、OCX 実行モジュールのレジストリ登録の自動実行を行う事も可能ですので、何らかのソフトウェアの導入を補佐するツールをお探しのユーザー様を対象として書かれております。ですので、Windows OS でのソフトウェアのセットアップに関する事柄に熟知されている事を想定しております。

- Windows OS に置けるファイルコピーの仕組みをご理解されている。
- Windows システムフォルダにコピーする際の UAC の仕組みをご理解されている。
- lzh、ZIP、CAB ファイル等のアーカイブファイルの仕組みをご理解されている。

1.2. 提供されるモジュールの内容

本ソフトは"Europa"または"SparkZIP"の付属ソフトとしてご提供致します。

ですので本ソフト単体でのご提供は致しません。

1.3. 簡単セットアップが対象とする OS、及び推奨動作環境

簡単セットアップ作成デザイナーは、特別なソフトウェアのインストールを実施していない標準的な Windows XP 以上で稼働する事を前提として作成しております。

左記の各 OS **Windows XP/2003/Vista/7/8/10/2008/2012** で利用する事が可能です。

尚、本実行モジュールは 32 ビット実行モジュールとして作成されており、また本実行モジュールが作成するセットアップモジュール 32 ビット実行モジュールを作成します。64 ビットセットアップモジュールの作成は行いません。

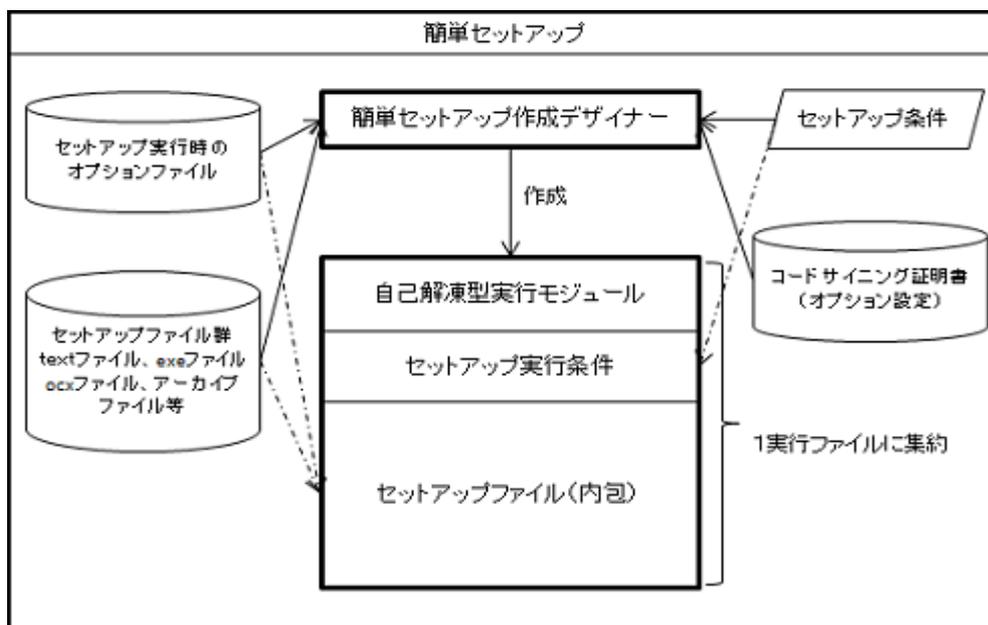
2. 簡単セットアップの位置付け、及び概要

簡単セットアップは、作成条件の各設定フィールドに入力された値に基づいて、セットアップ実行条件の作成、及び組み込み対象ファイルの精査を行います。

精査した結果、作成要件に問題が無ければセットアップ条件・セットアップファイル群をセットアップ実行ファイル（ExtRun.exe）に組み込み、全ての情報を1実行ファイルに収めた自己解凍型実行モジュールの作成を行います。

本処理を実施するにあたって、組み込みファイルに制限はありません。

2.1. 簡単セットアップの位置付け



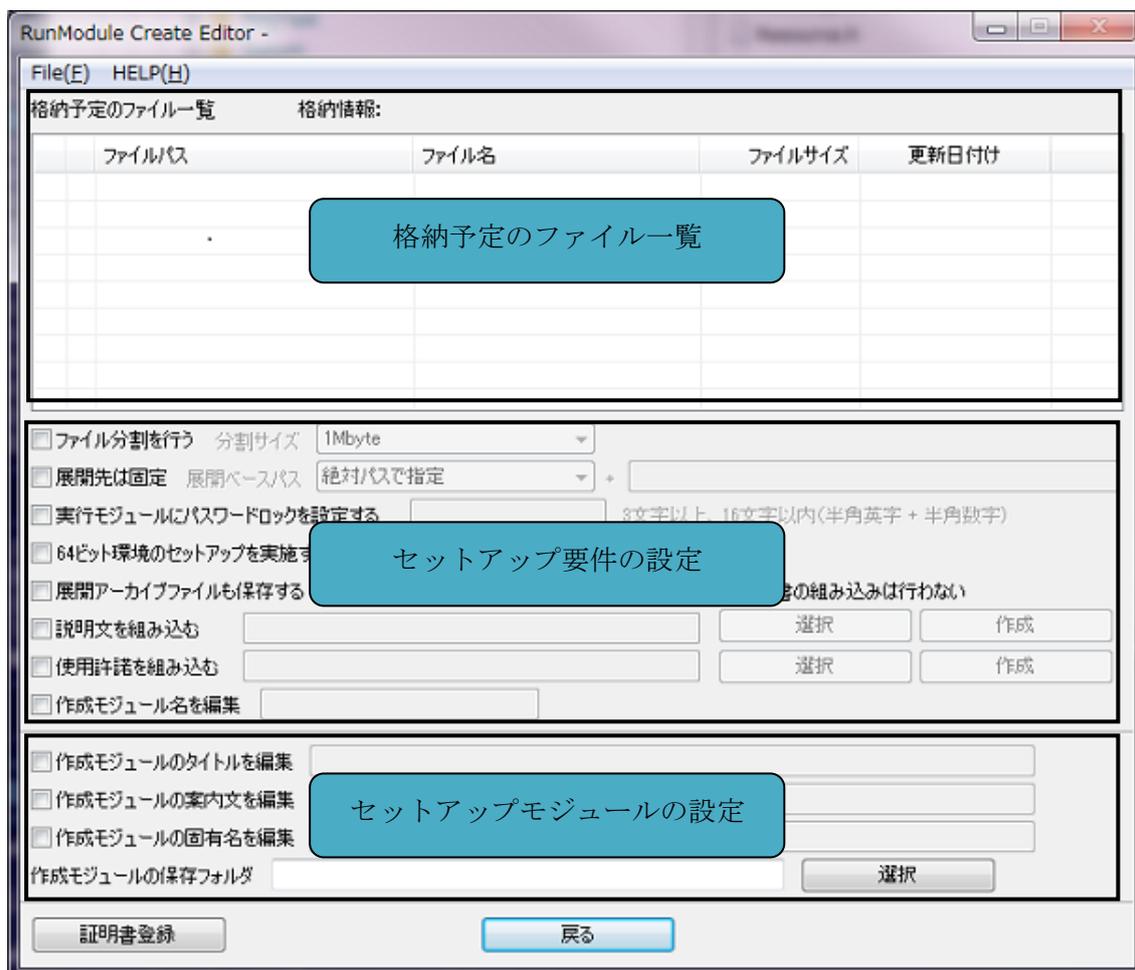
【機能概要】

- 入力されたセットアップ条件、及びオプション情報とセットアップ対象の各ファイルの統合を実施し、統合した展開ファイルをセットアップ実行ファイル内に内包させます。
- 作成したセットアップ実行モジュールを指定された保存フォルダに保存します。
- 複数のファイルを組み込む場合は CAB フォーマットのアーカイブファイルに集約し、その集約したファイルを統合ファイルに組み込みます。

【運用手順】

- 簡単セットアップ作成デザイナーを起動し、セットアップを実施するのに必要な各情報を入力後、自己解凍型実行モジュールの生成を実施する。
- セットアップ作成要件に不備が存在した場合はその旨を知らせるメッセージを表示されるので、その表示メッセージに従って設定内容の修正を行う。
- 簡単セットアップ作成デザイナーでは、プロジェクト管理機能等の作成要件の保存機能は実装していないので、自己解凍型実行モジュールの作成を行う都度、作成要件の入力を行う必要が有る。

2.2. 簡単セットアップの画面構成とその概要

**【格納予定のファイル一覧】**

- ・本リストビューにセットアップを実施するファイルをドロップします。
- ・ドロップファイルの編集機能は提供していません。
- ・新たなファイルをドロップし、そのドロップファイルのみを対象とした実行モジュールを作成する場合は、事前に「リストビューアイテムの全消去」を実施して下さい。

【セットアップ要件の設定】

- ・セットアップを実施する際に、そのセットアップ固有の条件を設定する場合に設定します。
- ・本フィールドの各項目は任意設定ですので、未入力状態でも実行モジュールの作成は行えます。

【セットアップモジュールの設定】

- ・作成モジュールの操作画面をカスタマイズする場合に登録します。
- ・作成モジュールの保存フォルダは必須項目ですので、必ず入力して下さい。

2.3. セットアップファイルのドロップについて

格納予定のファイル一覧		格納情報:		
ファイルパス	ファイル名	ファイルサイズ	更新日付け	

【各フィールドについて】

フィールド名	内容	説明
チェック表示	選択状況をチェックボックスの状態で見覚的に表示	初期ドロップ時は、選択状態としてチェック有りの状態で表示されます。 セットアップの対象から除外する場合は、チェックを外して下さい。
アイコン表示	ファイルまたはフォルダを示すアイコンを表示します	表示するアイコンは、フォルダの場合はフォルダアイコン ファイルの場合は、テキストファイルのアイコンを表示します。 ファイル種別に合せたアイコンの表示は行いません。
ファイルパス	ドロップファイルのパス情報	ドロップファイルにパス情報が含まれる場合は、そのパス情報を表示します。
ファイル名	パスを除いたファイル名	ドロップファイルの最終のファイル名を表示します。 表示データがフォルダの場合は無しとして表示します。
ファイルサイズ	ドロップファイルのサイズ	ドロップファイルのファイルサイズです。 表示データがフォルダの場合は無しとして表示します。
更新日付け	ドロップファイルの更新日付	ドロップファイルの最終更新日付けです。 表示データがフォルダの場合は無しとして表示します。

【パスの管理について】



- ・フォルダの場合は、ドロップしたフォルダ位置を起点にして内部管理します。
ローカルフォルダ上のフルパスで管理しているのではない事に注意が必要です。
- ・ファイルをドロップした場合は、パスを含まないファイルとして管理します。
- ・異なるドライブ間のファイル、またはフォルダのドロップも行えます。
- ・リストビュー上に表示されている情報が、セットアップ時の展開情報となります。
- ・フォルダアイテムを対象から除外した場合、該当フォルダ属する全アイテムを対象から除外します。

2.4. セットアップ要件の設定について

【各フィールドについて】

フィールド名	内容	説明
ファイル分割	実行モジュールに内包するファイルを指定のサイズに分割して組み込みます	セットアップ実行モジュールに内包させる統合ファイを、指定したサイズで分割し内包します。分割した場合は、実行ファイル名の末尾に“001”～の連番を付与します。
展開先は固定	セットアップする際に任意のフォルダではなく特定のフォルダに展開する	セットアップ先を固有のフォルダに導入する場合は、本項目のチェックして下さい。セットアップ先のフォルダ変更は不可となります。
パスワードロック	実行モジュールを起動した際にパスワードの入力を要求する場合に設定する	セットアップの実施に制限を掛けたい場合は、パスワードで実行時保護が可能となります。尚、本パスワードはアーカイブファイルのパスワードとは関連が無い事に注意が必要です。
64ビット環境	セットアップファイル内に64ビット実行モジュールが含まれる場合はONにする	簡単セットアップが作成する自己解凍型実行モジュールは、32ビット実行モジュールです。システムフォルダ関連にファイルの展開を行う場合は、Wow64にリダイレクトされます。確実に64ビットシステムフォルダへの展開が必須の場合は、本項目をONにして下さい。
保存のみ	解凍処理を行わない場合はONにする	内包ファイルが1ファイルのみの場合で、指定フォルダへの保存の実施する場合は、本項目をONにして下さい。
展開アーカイブファイルも保存	アーカイブファイルの保存も行う場合にONにする	解凍処理を実施した場合、解凍処理の終了後にアーカイブファイルは削除します。削除せずに該当のアーカイブファイルも残す場合は、本項目をONにして下さい。
実行モジュールの削除	処理完了後に、実行ファイルを削除する場合にONにする	分割実行モジュールを含め、作成した自己解凍型実行モジュールの削除を行う場合は、本項目をONにして下さい。
証明書	証明書の組込を行わない場合にONにする	コードサイニング証明書を付与しない場合はONして下さい。証明書の登録が無い場合は確認しません。
説明文の組込	セットアップ処理の実行前に注意事項等の案内を行う場合にONにする	セットアップ処理を実行する前にセットアップ実行者に対して何らかの通知を行う場合は、活用して下さい。登録可能なファイルはテキストファイルです。
使用許諾の組込	セットアップ処理の実行前に免責事項等の許諾を実施する場合にONにする	セットアップ処理を実行する前にセットアップ実行者に免責事項等の許諾を求める場合は、活用して下さい。登録可能なファイルはテキストファイルです。
作成モジュール名の編集	セットアップ実行モジュールのモジュール名を編集する場合にONにする	デフォルトの実行モジュール名は、“ExtRun.exe”です。別名の割り当てを行う場合に登録します。

【ファイル単体のセットアップについて】

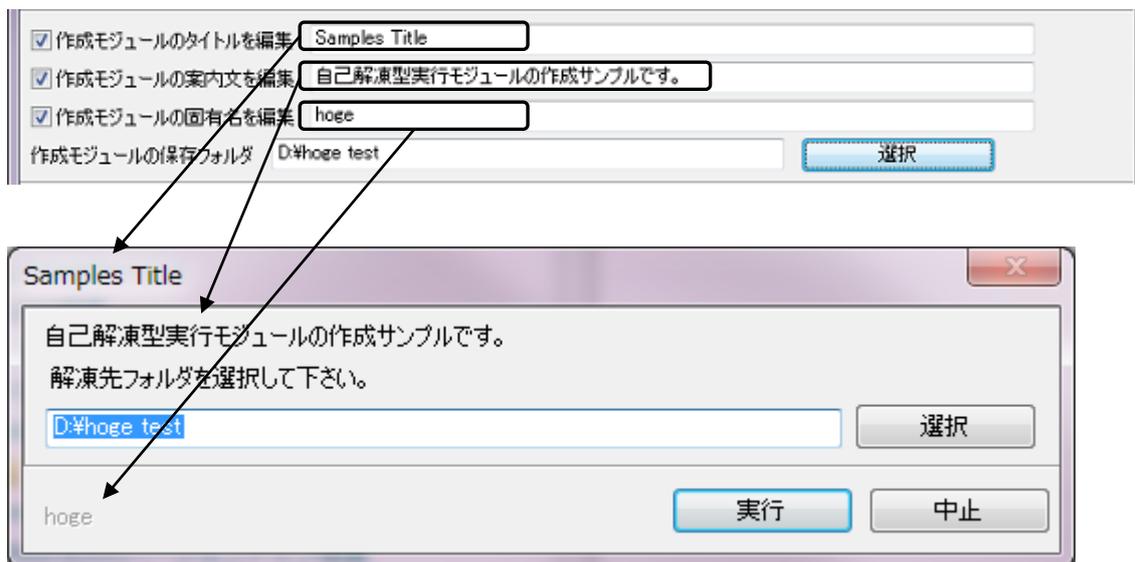
ファイル種別	アーカイブ	解凍処理
zip ファイル	原形のまま組み込み	Windows Shell 機能を利用した解凍処理を実施 解凍後はアーカイブファイルは削除
lzh ファイル	原形のまま組み込み	Windows Shell 機能を利用した解凍処理を実施 解凍後はアーカイブファイルは削除
cab ファイル	原形のまま組み込み	プログラム内部で解凍処理を実施 解凍後はアーカイブファイルは削除
7z ファイル	原形のまま組み込み	解凍を行わず原型のまま指定のフォルダに保存
rar ファイル	原形のまま組み込み	解凍を行わず原型のまま指定のフォルダに保存
bz2 ファイル	原形のまま組み込み	解凍を行わず原型のまま指定のフォルダに保存
gz, tgz ファイル	原形のまま組み込み	解凍を行わず原型のまま指定のフォルダに保存
tar ファイル	cab アーカイブを実施	プログラム内部で解凍処理を実施、tar ファイルのまま保存。 作成アーカイブファイルは削除
Exe ファイル	原形のまま組み込み	指定のフォルダに保存、Exe ファイルを呼び出す
ocx ファイル	原形のまま組み込み	指定のフォルダに保存、OCX のレジストリ登録を実施
Dll ファイル	原形のまま組み込み	指定のフォルダに保存
フォントファイル	原形のまま組み込み	フォントフォルダにインストール
その他のファイル	cab アーカイブを実施	プログラム内部で解凍処理を実施 指定のフォルダに展開後、作成アーカイブファイルは削除

- ・ファイル単体とは、自己解凍型実行モジュールを作成する際に組み込むファイルが1ファイルのみになる状態をいいます。
- ・実行ファイル系を組み込む場合、指定のフォルダに保存後、そのファイルの呼び出しを行います。保存のみを行いモジュールの起動を実施しない場合は、「保存のみを行う」をチェックして下さい。
- ・ZIP 及び LZH アーカイブファイルの場合、Windows 標準実装の Shell 機能を用いて解凍します。この場合に、展開先のフォルダにシステムフォルダが指定されていた場合は、予期せぬフォルダにリダイレクトされる場合がありますので注意が必要です。
cab アーカイブファイルの場合はプログラム内部で解凍処理を実施しますので、リダイレクトを一時的に無効にした状態で展開します。
- ・簡単セットアップが作成した cab アーカイブファイルは、セットアップ条件の設定内容に関係なくアーカイブファイルの解凍後は該当のファイルを必ず削除します。
- ・フォントファイルの場合でもセットアップ先のフォルダとしてフォントフォルダを指定しない場合は、その他のファイルとして取り扱います。
- ・複数のファイルを組み込む場合で、その組み込みファイル内に ZIP ファイル、EXE ファイル等が含まれていた場合でも、個々のファイルの個別解凍や個別呼び出しは行いません。

【説明文／使用許諾の組み込みについて】

- ・本ファイルは、セットアップファイルとは別に組み込みます。ですので、本ファイルが保存先として指定されたフォルダに保存する事はありません。プログラム終了時に削除します。
- ・作成を選択してオプションファイルの登録を行った場合は、該当のファイルは簡単セットアップの管理フォルダ上に一時作業ファイルとして作成します。
- ・選択と作成が重複した場合、選択を優先します。

2.5. セットアップモジュールの設定について



【セットアップ実行モジュールのカスタマイズについて】

- ・実際のセットアップを実施する実行モジュールに対し、その実行モジュール固有の情報を設定する場合は、本機能を活用して下さい。
実行モジュールのタイトル、案内文、補足表示の各フィールドに任意の文言の設定が行えます。

【セットアップ実行モジュールの画面レイアウトについて】

- ・セットアップ実行モジュール本体の画面レイアウトの変更は行えません。
選択ボタンの位置、画面の背景色等のカスタマイズの対応はいたしておりません。

【セットアップ実行モジュールの管理者権限について】

- ・セットアップ実行モジュールに対しての管理者権限の付与は行っておりません。
標準ユーザーのアクセス権限で起動されます。

【セットアップ実行モジュールを管理者権限付きで再起動】

- ・管理者権限を必要とするシステムフォルダへのセットアップを実施する場合、自身に管理者権限を付与する形での再起動を実施します。
- ・再起動を実施する際は、セットアップモジュール実行ユーザーに対して「管理者権限を付与して」起動する旨を通知し、了解した場合に限り自身の再起動を行います。

【アンインストールの登録について】

- ・アンインストールの登録機能は提供しておりませんので、アンインストール登録は行いません。
- ・ショートカットの登録機能も提供しておりません。

2.6. コードサイニング証明書の組み込みについて

【各フィールドについて】

フィールド名	内容	説明
コードサイニング証明書を組み込む	コードサイニング組み込み処理の有効無効	コードサイニング証明書ファイルの組み込みをセットアップ実行モジュールに実施する場合は、チェックして下さい。
Tool パス	証明書の組み込み処理を実施するモジュールへのパス	コードサイニング証明書ファイルの組み込み処理を実際行うモジュールは、提供しておりますので本項目の登録は必須ではありません。
証明書ファイル	コードサイニング証明書ファイル	開発元／配布元の実在性や、ファイルの安全性を証明するためにコードサイニング証明書ファイルです。 Authenticode 対応 Digital ID である必要があります。
パスワード	証明書のパスワード	本証明書を作成する際に指定したパスワードを設定して下さい。
説明	ユーザーアカウントダイアログのプログラム名	ユーザーアカウント制御ダイアログの画面上に表示される各情報の、プログラム名の箇所に表示される情報です。
説明 URL		
タイムスタンプを付加する	タイムスタンプの組み込みの有効無効	ある時刻にその情報が存在していた事を証明する副署名情報です。
URL	タイムスタンプサービスへの URL	画像では Verisign のタイムスタンプサービスを利用しています。

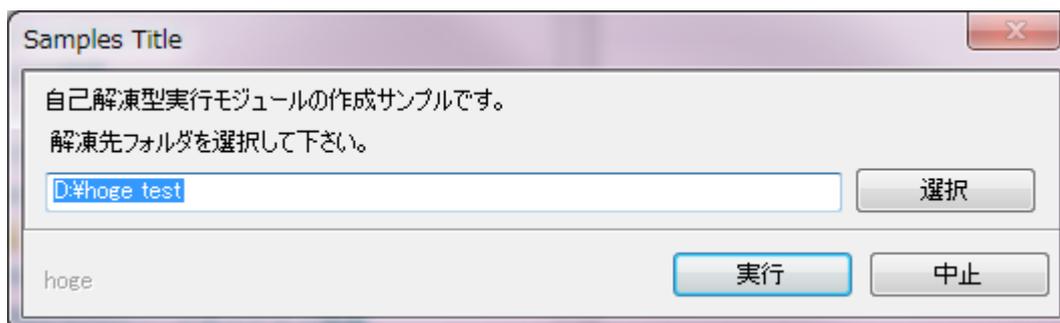
- ・登録したコードサイニング証明書の情報は不揮発情報として一元管理しますので、作成するセットアップ実行モジュール単位での固有証明書の適用は行えません。
- ・登録したコードサイニング証明書情報の適用を行わない場合は、「証明書の組み込みは行わない」をチェックして下さい。

3. 簡単セットアップ実行モジュール

ファイル分割を行わない通常タイプとして作成した場合、セットアップ開始待ちの画面表示を行い、「実行」または「中止」の選択を待ちます。

展開先を固定として作成された場合は、セットアップ先のフォルダ選択が行えない状態で表示されます。

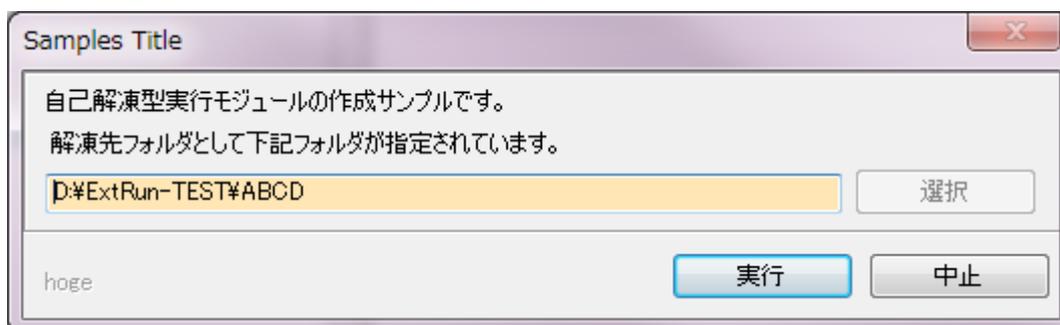
3.1. 標準セットアップ実行モジュールの表示画面



【選択ボタン情報】

項目名	内容	説明
選択	セットアップ先フォルダの選択	初期表示は、セットアップ実行モジュールが存在するフォルダを解凍先フォルダとして初期表示します。セットアップ先をフォルダを切り替える場合は、選択ボタンを選択しフォルダ選択のダイアログ画面からフォルダの選択を行います。
実行	セットアップ処理の実行	セットアップ処理を開始します。アーカイブファイルの解凍処理を行う場合は、解凍処理を知らせる画面に切り替わります。
中止	セットアップ処理の実行	セットアップ処理を中止します

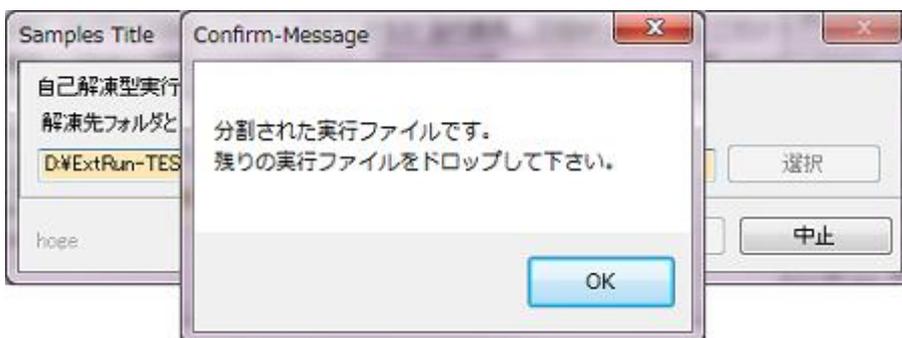
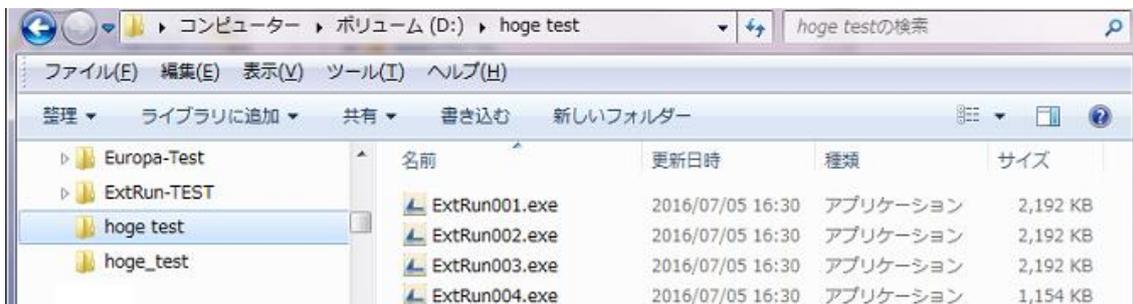
3.2. 展開先固定のセットアップ実行モジュールの表示画面



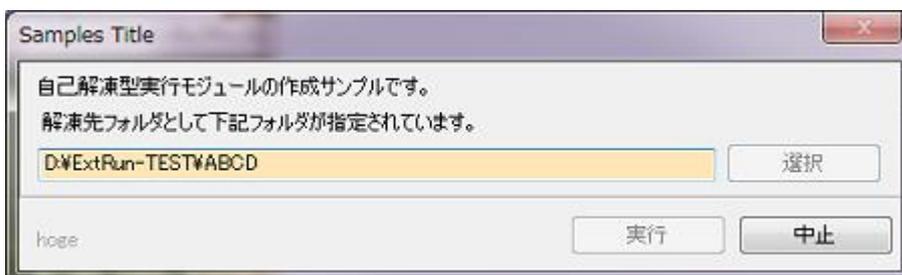
【展開先のフォルダの表示】

項目名	内容	説明
フォルダ項目	展開先のフォルダ情報を表示	セットアップ先のフォルダ情報は固定情報として表示され、任意のフォルダに変更する事はできません。

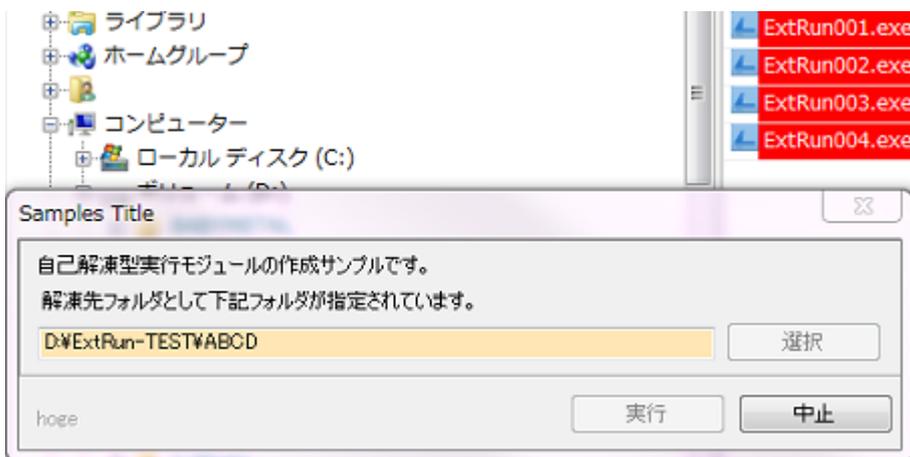
3.3. 分割セットアップ実行モジュールの概要



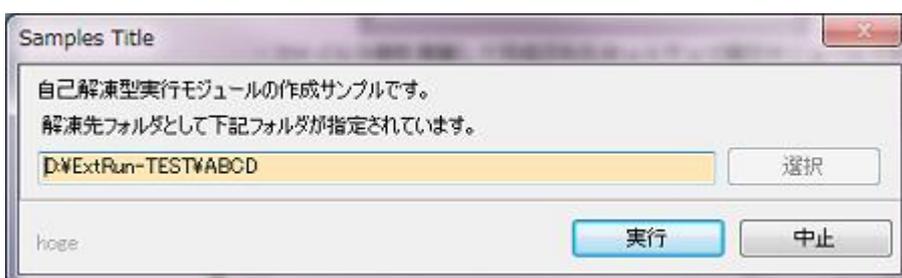
- ・ファイル分割を実施して作成されたセットアップ実行モジュールであることを知らせます。



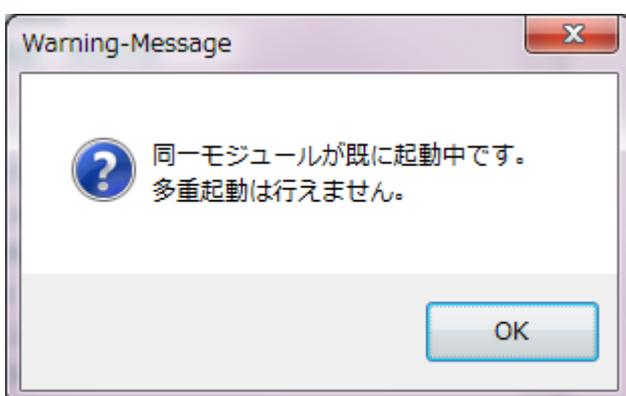
- ・分割された残りのファイルがドロップされるまでは「実行」ボタンは選択不可です。



- ・起動中の自身を含めた形でのファイルドロップに対応しておりますので、該当ファイル全てを選択した状態でドロップを実行しても問題無くファイル結合を行います。

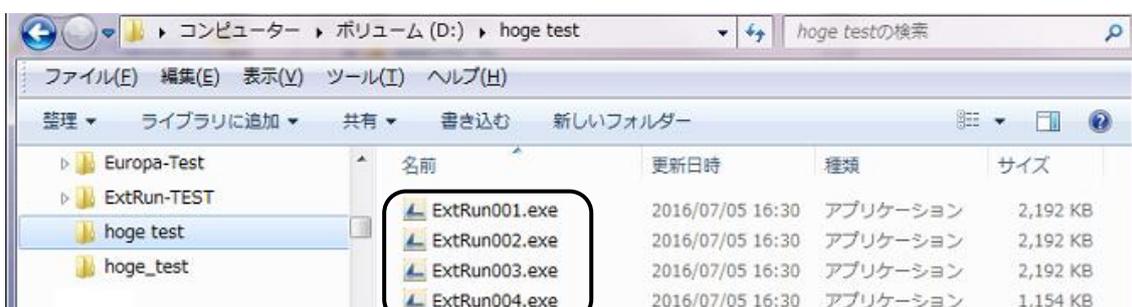


- ・分割した全てのファイルの結合が行えた場合は「実行」ボタンを選択可の状態に切り替えますので、処理を継続する場合は「実行」ボタンを選択して下さい。
セットアップ処理を実行します。
- ・分割ファイル以外の管理情報は全ての分割実行ファイルに同一情報として内包しますので、特定の実行モジュールを起動させる必要はありません。



- ・既に起動済みの分割モジュールで、その分割モジュールに紐付いた他の分割モジュールを起動した場合は、既に起動済みで有る旨を通知する警告メッセージを表示します。

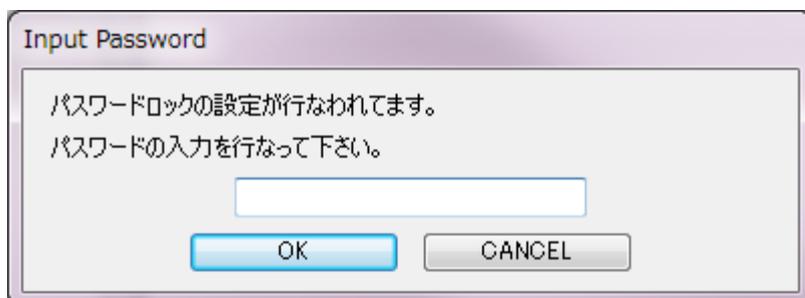
【分割モジュールのセットアップ条件の構成について】



- ・分割したファイルの内包データが異なるのみで、その他のセットアップ条件等の管理データは同一内容を全ての実行モジュールが保持します。
- ・分割した場合は何れかの分割実行モジュールの起動を行い、残りの分割モジュールはその起動した実行モジュールにドロップして下さい。

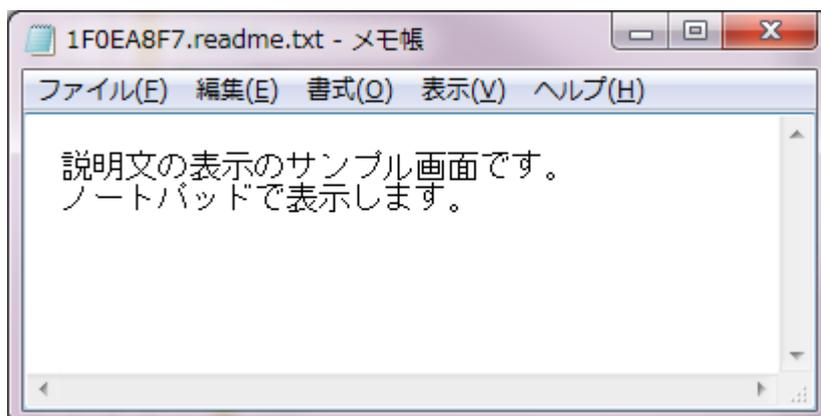
3. 4. 簡単セットアップ実行モジュールのオプション登録

【パスワードロック】



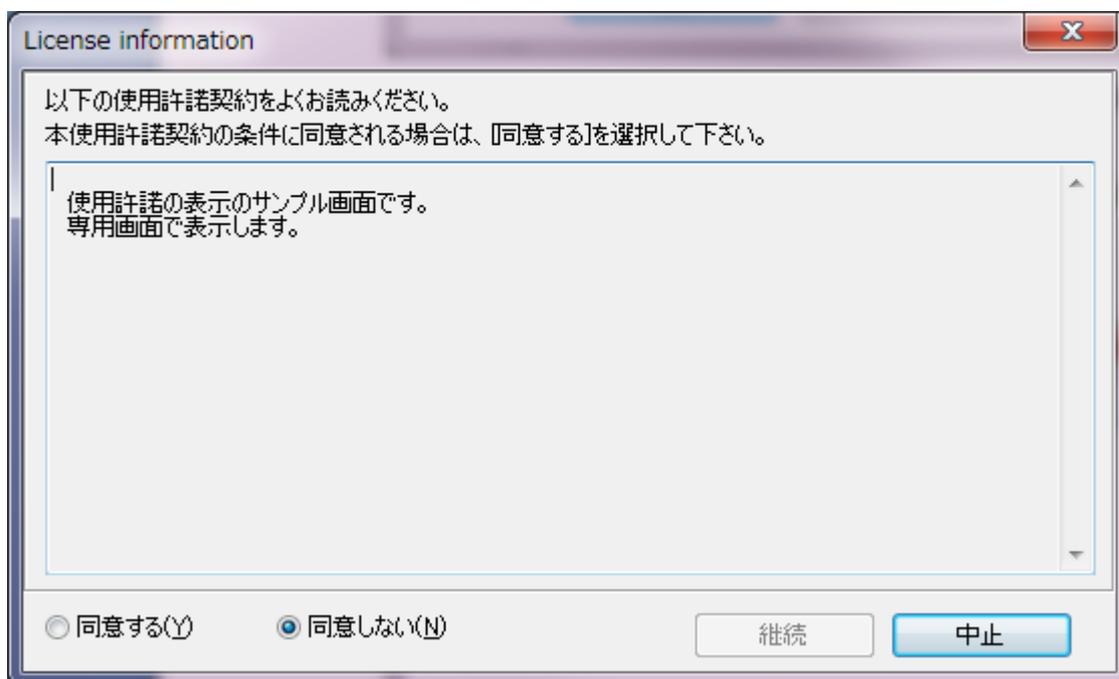
- ・セットアップ実行モジュールの起動にパスワードロックの設定が有効な場合は、パスワードの入力画面の表示を行いパスワードの入力を待ちます。
正しいパスワードの入力が行なわるまでは次の処理には進みません。
- ・ファイル分割を実施したセットアップ実行モジュールの場合でも、全ての実行モジュールに本設定が組み込まれています。

【説明文の表示】



- ・説明文を組み込むが有効な場合、登録された説明文の内容をノートパッドで表示します。
起動したノートパッドを終了するまでは次の処理には進みません。
- ・テキストデータを前提としていますので、ワード文書・PDF 文書等のテキストファイル以外の文書データを登録した場合、意図しない状態で表示されるかと思えます。
必ずテキスト文書の登録を行って下さい。
- ・ファイル分割を実施したセットアップ実行モジュールの場合でも、全ての実行モジュールに本設定が組み込まれています。

【使用許諾の表示】



- ・テキストデータを前提としていますので、ワード文書・PDF 文書等のテキストファイル以外の文書データを登録した場合、意図しない状態で表示されるかと思えます。
必ずテキスト文書での登録を行って下さい。
- ・ファイル分割を実施したセットアップ実行モジュールの場合でも、全ての実行モジュールに本設定が組み込まれています。